協　会　報

日本林業

● 第4巻　第2号 ●
平成24年　5月25日発行

発行：社団法人　日本林業協会
東京都港区赤坂１－９－１３三会堂ビル
TEL. 03-3586-8430　FAX. 03-3586-8434
編集・発行人　前田直登

林活地方議連全国連絡会議
今こそCO_2吸収源としての
森林の重要性を広くアピールする時期

写真は林活地方議連役員会の会場風景と挨拶する早川会長

森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟全国連絡会議（林活地方議連、会長：早川捷也岐阜県議）は5月22日に、7月末に予定される定時総会に向けて、次に備えた議論の場としての役員会を開催した。

議事開始に先駆けて日本林業協会の飯塚会長は「森林整備のための財源確保の一助として我々が大きく期待した地方版環境税に関しては、東京、大阪、沖縄を除きほとんどの地域で本年度中に動き始めることとなった。大変喜ばしいことです。しかしながら中央版環境税はというと、期待に反して、化石燃料から取るのだから発生をするところに戻すという方向で進んでいるようです。なんとか吸収減対策に繋がるような税にしてほしいということで、更なるお力をお借りしたい。昨年は厳しい情勢の中にありながらも成果を揚げてこれたのも、地元に密着し、状況を把握している議員諸氏の活動の賜物によるもの。迎える年もまだまだ山村、林業、木材産業にとっては難しさが引き続く年ではあるが、活発な活動による御協力を賜りたい」と林活地方議連に対しての期待を表明した。

林活地方議連の活動展開に関しては、「原子力発電の全面停止で、世間は電力不足のみに眼が言っているようで、電力会社も老朽化した火力発電所を再開するといったように、地球温暖化対策とは逆行した動きばかりが目立つ情勢だ。今こそCO2の吸収源としての森林の機能を大きく訴えなければならない時期であり、これが次に繋がる政策として展開していく必要があろう」として、温暖化防止のみを訴えるのではなく、森林整備の必要性に今まで以上に注力していく必要があるとの方針を示した。

―協会からの情報提供を一段と充実―

- 一般向け情報誌として『森林と林業』
- 会員向け情報誌として『協会報　日本林業』を発行

目次：

林活地方議連役員会	1
林業政策の現状	2
行事日程	2
森林の市28回の歩み	3

古久保森林整備部長　林活地方議連で林政の現況を説明

森林・林業再生プランの達成のための諸策実行段階に
地方により効果バラツキ⇒全国的普遍化にむけ弾力的に指導

林野庁の古久保英嗣森林整備部長は5月22日に開催された林活地方議連の役員会で「森林・林業を巡る最近の動きについて」と題した発表を行った。

古久保部長は、まず今年の林政のポイントについて、「震災復興２年目に当たり、海岸林の整備、森林の除染が大きな課題。加えて森林法改正や森林経営計画制度の見直しで再生プラン実現に向けた諸策がスタートし、国有林の一般会計移行に関わる法律改正に向けた動きも進んでいる」と指摘した上で、「現状は積極的に取り組んでいる地域とどうしても取組に支障がある地域とがはっきりしてきた。木材自給率は平成14年の18%から平成22年には26%へと8ポイントの回復を見たわけであるが、地域により雇用環境が大きく改善、拡大した地域もあれば、一向に変化を見せない地域も出るなど、地域差が出始めてきた。このような傾向は集約化の取組、路網整備についても同様である。ただしこのような動きは具体的な施策が動き始めた時だけに必然的に起こり得る事象であり、行政側が画一的に進めたのでは広い意味での効果に繋がらないことを都道府県段階にも説明・お願いしている。基本はブレてはいけないが、地域の実情に即してフレキシブルに対応することが必要である」と政策遂行の姿勢をはっきりと示した。

なお、本年４月から実質的に動き始めた森林計画制度に関しては、「所有者届出義務の新設、無秩序な伐採や造林未済地の防止強化、要間伐森林所有者に対する措置、施業に必要な土地使用権の設定手続きの改善などは、今後集約化を各地で実施し、促進を図ることを考えれば、どうしても必要な措置であり、これらの制度措置が整ったということは非常に大きな成果であったと考えます」として国産材の供給力増強に対して高い期待を持っていることも表明した。

4月の国会の動き

2日（月）参議院・予算委員会（H24年度総予算集中審議、締めくくり質疑）
4日（水）自民党林政調査会（2013年以降の森林吸収源対策について、緑の雇用について）
4日（水）公明党農林水産部会（国有林野法案）
5日（木）参議院本会議（H24年度予算案可決）
5日（木）衆参両院協議会（不調のため、衆院議決優先でH24年度予算成立）
6日（金）民主党森林・林業調査会総会
10日（火）衆議院・国対法案説明会（国有林野法案）
12日（木）参議院・農林水産委員会（国有林野法案質疑・採決・付帯決議）
12日（木）民主党森林・林業調査会総会
20日（金）成長戦略・経済対策PT
24日（火）民主党農林水産部門会議、森林・林業WT(原木しいたけ生産者への被害対応)

5月の業界・協会の動き

9日（水）全国木材組合連合会・全国木材協同組合連合会総会（メルパルク東京）
12日（土）みどりの感謝祭（日比谷公園、併催行事の森林の市は13日まで）
14日（月）全日本木材市場連盟総会（イースト21）
15日（火）『森林と林業』編集会議
17日（木）全国国有林造林生産業連絡協議会総会（ホテルメトロポリタン）
20日（日）平成24年度山地災害防止キャンペーン開始（6月30日まで）
22日（火）森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟全国連絡会議役員会（霞が関ビル）
23日（水）日本集成材工業協同組合総会（メルパルク東京）
28日（月）日本合板工業組合連合会総会（ホテルグランドパレス）

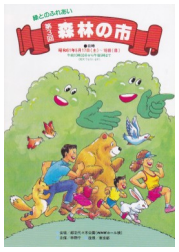
「森林（もり）の市」28回の歩み
代々木から日比谷へ　開催の歴史を重ねて終焉

森林に接する機会の少ない都会の人々に、森林のさまざまな役割や働きを紹介し、また森林から生産されるさまざまな産物を楽しんでいただきながら、森林の大切さを理解してもらうおうと企画された「森林の市」。昭和59年から開催され、平成17年からは、森と緑の祭典『みどりの感謝祭』の併催行事として実施されてきました。多くの方々に親しまれてきた「森林の市」ですが平成24年をもって終了することとなりました。この機会に過去28回を振り返ってみました。

第1回：昭和59年5月12～13日
初回「森林の市」のテープカットは、当時の山村新次郎農林水産大臣（写真中央）と島村宜伸農林水産政務次官（左）、秋山智英林野庁長官（右）によって行われました。

2回：昭和60年
5/18-19

3回：昭和61年
5/17-18

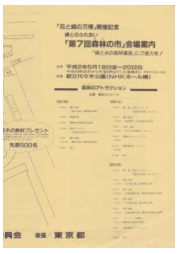


4回：昭和62年
5/16-17

5回：昭和63年
5/20-22

6回：平成元年
5/19-21

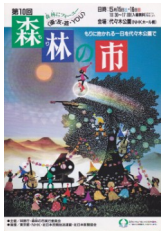
7回：平成2年
5/18-20



8回：平成3年
5/17-19

9回：平成4年
5/15-17

10回：平成5年
5/15-16



11回：平成6年
6/11-12

12回：平成7年
6/3-4

13回：平成8年
6/8-9

「森林の市」は初回から21回まではNHKホールの隣にある代々木公園を会場として開催されました。会場には「木の恵み」コーナーや、「森の遊び」、「森の体験」をテーマとしたコーナー、全国各地から出展された「森の産物」コーナーなどが設けられたほか、ステージでは各地の名物太鼓や動物の曲芸なども披露されました。人気は何と言っても苗木配布でした。

14回：平成9年
5/31-6/1

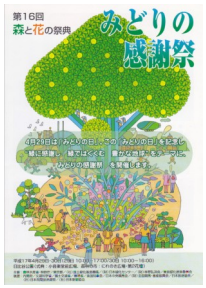
15回：平成10年
5/30-31

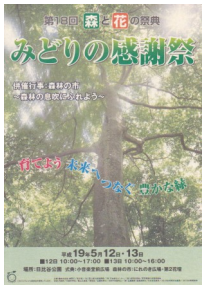
16回：平成11年
5/22-23

17回：平成12年 5/27-28　18回：平成13年 5/26-27　19回：平成14年 5/25-26

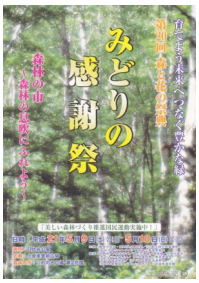
20回：平成15年 5/24-25　21回：平成16年 5/22-23

22回：平成17年 4/29-30　23回：平成18年 4/29-30　24回：平成19年 5/12-13





25回：平成20年 5/10-11　26回：平成21年 5/9-10　27回：平成22年 5/8-9



平成17年からは『みどりの感謝祭』の併催行事に

これまで21回にわたって代々木公園で開催されていた「森林の市」ですが、平成17年からは春季の緑化行事として4月29日の「みどりの日」に開催されていた『みどりの感謝祭』の併催行事として開催されることになり、会場も日比谷公園になりました。

のちに、4月29日が「昭和の日」として制定されたことから、「みどりの日」は5月4日に改めて制定されたことで『みどりの感謝祭』は5月のゴールデン・ウィーク明けに行われるようになっています。

『みどりの感謝祭』は秋篠宮同妃両殿下をお招きし、衆参両院議長も参加する中で、みどりの文化賞の顕彰や、植樹祭等の次期開催県に対する苗木の特別贈呈などが行われています。

写真はいずれも過去のみどりの感謝祭風景

最後の「森林の市」

28回：平成24年5月12日～13日

平成23年は3月11日に発生した東日本大震災のため、「みどりの感謝祭」と「森林の市」はともに開催が自粛されましたが、平成24年にはともに再開され、全国各地の森林の仲間が集う中、「森林の市」が開催されました。

今年で最後となった「森林の市」の会場では、木の物産展示・即売、木登り体験などのほか、ステージではソプラノ歌手雨谷麻世さん、ミュージカル「葉っぱのフレディ」の子役達によるミニライブなどが行われ、多くの家族連れが訪れ、盛況のうちに終了しました。